川村学園女子大学　カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

川村学園女子大学　カリキュラム・ポリシー

川村学園女子大学では、建学の精神に基づき、自覚ある女性として社会に奉仕できる教養人を養成するため、文学部を置く。各学部は以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

１．広範で多様な教養教育、幅広い職業人養成を目的としてすべての学生が履修する全学共通カリキュラムを導入し、 さらに高度の学問研究の場を提供するため、各学部は学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。

２．各学科は専門分野の知識および方法論を習得し得るよう、初年次段階から学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。大学における学修の集大成として、卒業研究を全学必修とし、指導教員制のもとにていねいな個別指導を行う。

３．全学共通カリキュラムでは、初年次教育として、自立的な学習スキルの養成を目標とする科目、 建学の精神の周知を目指す科目、情報処理教育の科目を配置し、豊かで時代に即した教養の修得をはかるために共通教育科目を多様に設定する。

４．学部学科の専門分野を超え、幅広く関心ある科目を履修して学際的な視点を養うことを奨励するため、所属学科の主専攻のほかに「副専攻」の履修プランを用意するとともに、「クロスオーバー学習制度」を導入する。

５．学生各自の個性に基づいて自己を確立し、それをいかに社会に生かすかを考えさせ、職業人としての基礎力を養成するため、初年次からキャリア・プランニング科目を設定する。

６．初年次の基礎ゼミナールから卒業論文・卒業研究の研究指導に至るまで、少人数教育を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。

文学部　カリキュラム・ポリシー

【教育課程の編成】
　文学部は国際英語学科、史学科、心理学科、日本文化学科を設置し、各学科が全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。

【学修方法・学修過程】
　全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、各学科の専門科目を初年次から履修可能とする。
　学年進行とともに、順次性のある専門的な科目を配置し、卒業論文を必修とする。
　少人数のゼミナールを低年次から高年次まで導入する。
　各学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、実習科目を中心とするアクティブラーニングによって体験的、主体的に学修を行う。
　取得単位数の上限を設定し（ＣＡＰ制）、学生の学修を支援する。

【学修成果の評価の在り方】
　ＧＰＡによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。
　各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。
　実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。
　ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。

史学科　カリキュラム・ポリシー

【教育課程の編成】
　史学科のカリキュラムは「人間社会を理解する力」（幅広い理解・歴史学の専門知識・方法の理解）、「読解力を高め問題発見する力」（言語的理解と表現）、「分析して思考し解決する力」、「感性を磨き社会に貢献する力」（主体性　協働）、「「自覚ある女性」として活躍する力」（主体性　協働　社会規範）の５本の柱で構成されている。
　そして、初年次から学年進行に合わせ、全学共通科目と学科専門科目を体系的に配置する。専門科目は歴史学の新しい方法や視点を取り入れ、多くの選択科目を設けて幅広い教養と深い学識が習得できるように配慮する。

【学修方法・学修過程】
１．全学共通カリキュラムによる教養教育と職業人教育に加えて、史学科の専門科目を初年次から履修可能とする。専門科目は、学年進行に従い順次性をもって科目を配置し、日本史・アジア史・西洋史の各専門領域の科目が履修できるようにする。
２．初年次においては、基礎ゼミナールにおいて、大学における学修に必要なリーディング・ライティングの基本的なスキルを教授する。また、研究入門科目において、日本史・アジア史・西洋史の各専門領域の知識や方法論の基礎を身につける。
３．少人数の演習科目を１年次から４年次まで全年次で導入し、学年ごとに必修または選択必修とする。これらを中心にアクティブラーニングを導入した科目を多数設け、体験的・主体的に学修を行う。
４．４年次において、教員の指導のもと、卒業論文を作成し提出することを必修とする。
５．キャリア・プランニング科目の履修をサポートするなど、学生の就職に向けた支援を行う。
６．初年次より学修ポートフォリオを作成する。各学生が自ら記入することで自己啓発能力を高めるとともに、内容について教員が指導することで学修の改善を目指す。

【特色ある教育】
１．歴史学地理学の各分野における基礎知識ならびに方法論を身につけるため、２学年にわたって日本史・アジア史・西洋史・地理の概論にあたる科目を全分野について履修する。
２.歴史学の修得に必要な外国語に習熟し異文化を理解するため、２学年にわたって英語ならびに第２外国語を履修する。
３．２年次に現代日本語以外の文献（古文・漢文、欧文など）の講読を履修し、レポートや卒論で史料を利用する能力を育む。
４．時代・地域にとらわれないテーマ史の講義を多数開講し、歴史学を研究する上での多様な視点や新しい視座を提供する。
５．高等学校・中学校教員や司書・学芸員などの資格取得を希望する学生に対する体制を整備し、支援する。

【学修成果の評価の在り方】
１．ＧＰＡによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。
２．各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。
３．演習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。
４．ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。

心理学科　カリキュラム・ポリシー

【教育課程の編成】
　心理学科は、人々の心に科学的にアプローチするための知識および方法論を習得し得るよう、学年進行に合わせて、講義、演習、実験・実習科目を体系的に配置している。授業科目は、心理学一般とアプローチを理解する基礎的科目を共通基盤として、科学的思考を備えたコミュニケーション能力を育む認知・社会心理学系科目と、心理的支援力を身につける発達・臨床心理学系科目と、自覚ある女性を目指す科目で編成されている。この３つの柱を学ぶことで、学生が身につける資質・能力が育まれるように組み立てられている。

【学修方法・学修過程】
１．初年次教育
　１年次には、「基礎ゼミナール」において、大学における学び方の基礎を理解する。また、「心理学概論」で心理学の成り立ちや領域を理解し、「心理学統計法（基礎）」で心を科学的に捉えるアプローチの準備をする。さらに、心理支援に関わる現場を体験的に学ぶ「心理実習（入門）」では、自分に合った今後の学修法への理解を深める。
２．専門教育
　２年次で「心理学実験（基礎）」を学び、心理学的に調べ・分析し・考え・報告する力を培う。３年次以降は、認知・社会心理学系科目および発達・臨床心理学系科目における理論と技法を学べるよう、講義のみならず実験や実習を交え、アクティブラーニングを行う。４年次では、主体的に自分の探求テーマを定め、「卒業論文」にまとめる。
３．キャリア教育
　「自覚ある女性」の理念を実体化するために、心理学の知見を元に自分の個性を適切に認識し、自分らしい社会参加ができるよう支援する。心理学系の専門資格として、認知・社会心理学系では社会調査のエキスパートである「社会調査士」を、発達・臨床系では心理支援の国家資格である「公認心理師」受験資格の取得をサポートする。
４．学生への教育支援
　「実験」「調査」では情報処理を円滑に行うために、情報機器や実験教材を多数用意する。また体験・実践的な学びを深められるよう、「実習」「演習」科目ではグループ活動を含めたアクティブラーニングを積極的に取り入れる。また「社会調査士」「公認心理師」資格や大学院に対して情報提供をし、説明会や個別サポートを行う。

【特色ある教育】
　認知・社会心理学系では、実験やアンケートなど、科学的な手法で社会の課題やニーズを捉えるスキルを磨く。発達・臨床系では、心理検査やカウンセリングなど、個人の個性や課題を支援的に捉える力を培う。また、「心理学特殊講義」では、先端的で特色あるさまざまな心理学テーマを取り上げ、今日的な学びを進める。

【学修成果の評価の在り方】
　ＧＰＡによる成績評価を運用する。各学生に対しては、ルーブリックにより学修の展開や蓄積を可視化しつつ、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を以下の観点で評価する。
・認知・社会系および発達・臨床系科目に関する知識技能を理解・修得しているか。
・心理学に関わる諸情報を適切に処理分析し、判断して、表現する力が身についたか。
・心理学的な課題に主体的、協働的に取り組む姿勢と技能を修得しているか。

日本文化学科　カリキュラム・ポリシー

【教育課程の編成】
　日本文化学科のカリキュラムは、日本文学・日本語学系（「日本語で表現する力」）、日本美術・伝統芸能・民俗系（「感性を働かせ創造する力」）の２つの柱で構成している。この２つの柱を学ぶことで、学生が身につける資質・能力が育まれるように組み立てられている。

【学修方法・学修過程】
１．日本文化に関わる必修科目、各分野の基礎的な教養科目、高度な専門性を持つ科目、資格取得に必要な科目、実技科目を学年の進行に沿って配置している。
２．初年次・２年次においては、基本的な学習方法論を修得するため、日本文化に関わる科目を中心に、講義ノートの取り方、文献収集の方法、プレゼンテーションの方法とレジメの作り方を学ぶ。
３．３年次では、日本文化への理解をより深めるため、２つの専門領域の中から演習科目を２つ履修し、学生が主体的に調査・研究を行い、その成果についてのプレゼンテーションを行う場を設けている。
４．最終年次では、学修の集大成として卒業論文・卒業研究の作成を行わせる。研究指導では、指導教員制のもとで、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。
５．キャリア・プランニング科目のサポートを行い、専門性と実践力を身に付けさせる。また、初年次より学修ポートフォリオを作成し、自己啓発能力を高めるとともに、社会人としての基礎力を養成する。

【特色ある教育】
１．学科では繊細でしなやかな感性を養うために、日本の伝統文化を体験できる実技科目（書道、日本舞踊、茶道、華道、日本画、能の仕舞・謡い）を設置している。
２．資格取得に必要な科目では、中学校・高等学校国語科教員、日本語教員、並びにクロスオーバー学習制度で取得可能な博物館学芸員、図書館司書の資格も含め、各資格に関わる基礎から専門までの幅広い知識を、理論と実習を通して身に付けられるよう指導する。

【学修成果の評価の在り方】
１．ＧＰＡによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。
２．各学生の学修の展開と成果を学習ポートフォリオによって評価する。
３．実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。
４．ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。

人文科学研究科　心理学専攻

◎カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成】

臨床心理学領域：

１．臨床心理学の基礎を必修とし、実習・スーパーヴィジョンにより心理臨床領域の実践力が身につくようカリキュラムを編成する。

２．臨床心理学の基礎と実習のみならず、認知、社会、発達など幅広い科目を設置し、心理学全般の高度な知識、理解力を養成する科目を設置する。

３．多様な現場に対応した即戦力・応用力を身につけられるよう、各種の治療的理論や技法、心理療法を修得するための科目を配置する。

心理行動科学領域：

１．最新の研究成果を示し、心理学の専門職に求められる高度な知識や分析力を修得できるようカリキュラムを編成する。

２．認知心理学分野と社会心理学分野を中心に、人間の知的機能や対人関係のメカニズムを深く探究し、主体的に研究を行い得る能力を養成する科目を配置する。

【学修方法・学修過程】

１．講義科目

臨床心理学領域では問題解決型学習、役割体験学習、課題学習を行う。心理行動科学領域では問題解決型学習、課題学習を行う。教員と院生だけでなく院生同士の討論を行うことによって、学習目的達成および学習内容の理解を深める。

２．演習科目

課題に取り組むために、文献講読・調査を主に行う。講読・調査内容はレジメを作成するだけでなく内容についてのプレゼンテーションを行う。院生間、院生と教員間で討論を行い、レポート作成によって課題の理解を深める。

３．実習科目

臨床心理学領域においては、学内の臨床心理相談センターおよび学外の医療・教育・福祉・司法・産業等の多領域にわたる実習協力機関で、実習を行う。事前指導における倫理的な教育はしっかり行う。実習に関するスーパーヴィジョンおよびケース・カンファレンスを通じた丁寧な指導を行うことにより、院生の理解を深める。

４．研究指導
実証的、論理的な研究を進めるため、テーマの選定や実証方法・分析方法の選択、論文構成や内容等に関して、指導教員が綿密な個別指導を行う。また、中間発表会・最終報告会等により集団指導を行う。両領域とも研究指導の中で研究倫理を丁寧に学ぶ。
５．特色ある教育
臨床心理学領域では、臨床心理学領域以外の多様なカリキュラムを設置し、心理学全般に関する幅広い視点での学修が可能である。また、多彩な実習先を設定しているため、心理臨床の実践力が身につく。心理行動科学領域では、認知心理学と社会心理学を中心とした高度な知識と分析力の修得が可能である。

６．キャリア教育
学内・学外の機関等で実習・調査を行う場合、事前に日本臨床心理士会の倫理綱領および日本心理学会倫理規程に基づく倫理や各機関の職務規程についてのガイダンスを実施する。大学院修了後も外部実習・調査についてのレポート作成・報告および研究論文作成などに際して、守秘義務と個人情報保護に関する指導を行う。
各種学会への入会と参加を推奨している。臨床心理学領域では日本心理臨床学会、心理行動科学領域では日本心理学会、への入会および学会活動を勧めている。
臨床心理学領域では、公認心理師および臨床心理士受験のサポートを行う。

７．学生への教育支援
研究・実習を円滑に行うために、情報・研究機器および心理検査器具を多数用意する。また体験・実践的な学びを深めることために、実習・演習科目ではグループ活動を含めたアクティブラーニングを積極的に取り入れる。また公認心理師・臨床心理士資格に関する情報提供をし、個別サポートや授業外講習会を行う。

【学修成果の評価の在り方】
受け身の学修ではない学生の主体的な課題解決への取り組みを重視する。取り組んだ課題について、テーマ選択から結果の分析・検証に関してのまとめ方を評価する。その際、レポートそのもの、およびプレゼンテーション・討論能力等を総合的に評価する。

人文科学研究科　比較文化専攻

◎カリキュラム・ポリシー

＜比較文化専攻　博士前期課程＞

【教育課程の編成】

比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の 3 分野からなり、学際的知見を身につけ、修士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

１．地域文化研究分野では、日本、アジア、欧米等の諸地域に関する歴史・文化・地理等の高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
２．社会・文化コミュニケーション分野では、宗教、言語、教育、民俗、地域活動に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
３．女性学分野では、ジェンダーにおける歴史、教育、批評に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
４．専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方等を習得できる基礎科目を配置している。

【学修方法・学修過程】

１．地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。
２．基礎科目によって、専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方を習得する。
３．指導主任教員からの研究指導に加え、年に 2 回、研究発表会で研究成果を口頭で発表し、他の教員、学生から助言を得る。
４．学修の集大成として、専門的な視点から修士論文を完成させる。

【学修成果の評価】

GPA による成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

＜比較文化専攻　博士後期課程＞

【教育課程の編成】

比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の 3 分野からなり、高度に学際的かつ独自性のある視点から研究を行い、博士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

【学修方法・学修過程】

１．地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。

２．長期研究計画書作成し、指導主任教員及び他の教員からの指導・助言を得ながら、研究成果を年 2 回、研究成果発表会で口頭発表し、他の学生や教員から講評を得る。

３．研究成果を『川村学園女子大学大学院研究年報』に 1 編以上掲載する。さらに査読付の学術研究誌に 2 編以上論文を掲載する。

４．学修の集大成として博士論文を完成する。

【学修成果の評価】

GPA による成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究成果発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。